

Introduction of works

【ペンダント】

岩間 康

(右側)

大きな輪が空洞のパイプになっている。パイプの両方にフタがしてあるので空洞には見えないが、つけ心地は軽くなる。この技術により、見栄えの良さと使い勝手の良さを兼ね備えることができた。また、空洞のため使用する貴金属の量が少なくてすみ、価格も安く抑えられる。

(左側)

ペンダントトップ部分のチェーンの長さを手動で変えられる。服装や着ける人の気分に合わせて、チェーンの長短でペンダントの雰囲気大きく変えることができる。



【サイズ】 右:縦35mm × 横20mm
左:縦10mm × 横10mm
(金属部分)

【素材】 右:K18・ダイヤモンド
左:K18・ダイヤモンド・真珠

『新しい製品を開発して、「これどこにもないよね」「雨宮金属でしか作れないよね」と言われるのが楽しいっすよね』
自分の会社でしか応えられないことがあるということが誇りである。それが信頼となり、次の仕事へつながり、最後はお客様の笑顔になる。

山梨ジュエリーミュージアム

山梨県甲府市丸の内1-6-1 山梨県防災新館1階

<https://www.pref.yamanashi.jp/yjm/>

開館時間: 10:00~17:30(最終入館17:00)

休館日: 火曜日(祝日の場合はその翌日)、年末年始、その他、臨時に開館・休館することがあります。

入館料: 無料

駐車場: 92台
山梨県防災新館地下有料駐車場
(来館者は1時間無料)



craftsman jewelry file.20

yasushi iwama

2020 March

craftsman jewelry

岩間の選んだ道

岩間は、普通高校を卒業後、今勤めているのは別の甲府市内の貴金属加工会社で働き、原型制作技術や貴金属加工技術を身につけた。社会人になってすぐの1980年代後半はバブル経済の絶頂で、高額なものがどんどん売れる時代であったため、岩間も習得した技術を活かして多くの商品をつくる機会にも恵まれていた。

8年後、岩間は彼の叔父が創業した「株式会社雨宮金属」に移った。技術習得後独立する同僚も多かったが、岩間は「株式会社雨宮金属」の社員として、会社の未来を支える道を選んだ。

山梨でのジュエリーの量産とは

「株式会社雨宮金属」は、1点もののジュエリーも制作しているが、業務の大半は量産型の商品の製作である。ジュエリーの開発やデザイン、製作、販売を分業し別々の会社で行うのが主流の山梨には、一定数の同一製品を納品する「株式会社雨宮金属」のような量産型商品の製作会社が多数存在し、国内最大のジュエリー産地としての基盤を支えている。

『量産』という言葉の響きからは、「質より量」「安かろう悪かろう」というイメージをもたれかねないが、ジュエリーの場合には当てはまらない。2点以上同じデザインで製作されれば量産であり、限定品であっても、誰もが知っている大手ブランドのジュエリーであっても、量産品なのである。そもそもジュエリーは宝物としての要素が強いことから、唯一無二や希少性といった“特別”なものであることが価値の1つであり、それは1点ものであっても量産であっても同じである。“量産”されるジュエリー1つ1つに、手にした人の“特別”にふさわしい高いクオリティーが要求される。

更には、バブル経済の崩壊により作れば売れるという時代は終焉を迎え、消費者の多様なニーズに応えたものが売れる時代となった今、これまでのデザインや技術、品質、希少性に加えて、安心や安全、信頼という新たな付加価値も求められている。



「お客様の喜ぶジュエリーをつくること」 目指す先はいつも

仕事は全て「お客様のために」

岩間は、取引先から発注される1点もののジュエリーを制作する職人と、「株式会社雨宮金属」の専務取締役として量産製作の管理監督責任者の二つの顔を持っている。

機械化により量産が可能になった現在でも、ジュエリーの量産は製作工程で必ず人の手が入る。「株式会社雨宮金属」では、外注以外はその工程を30人以上いる従業員で分担しているが、修業時代から培った知識と技術力で岩間はほぼほとんどの作業行程を指導統括し、高い品質の維持に努めている。

指示されたデザインに忠実であること、品質とコストのバランスが保たれていること、納期が守られること。それに加えて高い品質と安全性が確保されていること。消費者の視点が厳しくなっている中、ルーペによる細部にわたる製品の検品や成分分析の証明など、取引先の要求は年々厳しくなっていく。自社製品への信頼を獲得して次の仕事へつなげていくために、岩間は社員の技術向上だけでなく材料の仕入れに至るまで、ジュエリーを生み出すプロセスの全てに目を配る。

全てを自分の手作業によりオリジナルの製品を制作することは、職人としての技量を存分に活かせるので、作り手にとって楽しくやりがいもある。一方でその思いは、従業員一丸となって顧客のニーズに応える量産品作りでも変わらない。「お客様が喜んでくれることが一番嬉しい」岩間にとって、どちらの仕事もその一言に尽きるのだ。

昔も今も、これからも

岩間が「株式会社雨宮金属」で働き出した当初は、原型なども全て手作りで制作されていたが、時代とともにCADや3Dプリンターなどの新しい技術が導入され、成分分析をするためのX線検査機による品質管理も行うようになるなど、作業風景は大きく様変わりしてきた。

宝飾品の販売ルートも大手デパートだけでなく量販店やインターネットによる通信販売、テレビショッピングなど多種多様になり、自社で作ったパーツが使われたジュエリーや自社開発のジュエリーを日常で目にする機会も増えた。

岩間自身も1日中ものづくりをしている日々だったのが、勤続年数が増えるにつれ、会社の顔として取引先を回り営業活動をする時間が増えてきた。

それでも、多くのお客様に自社のジュエリーを手にしてもらえることの喜びは、昔も今も変わらない。岩間にしかできないこと、自社でしか作れないジュエリーを開発することを追求し続けることが、お客様の喜びにつながり、社員の笑顔にもつながる。

「1点ものでも量産製品でも、他人が他社が真似できないジュエリーをつくる」「求められる品質を確保し、信頼される商品をつくる」「納期を守る」。ものづくりの原点を大事にし、自分と会社と山梨の宝飾産業の未来のために、岩間は情熱と信念をもって今日も製品づくりと営業の2足のわらじで前へ進んでいる。



岩間 康(いわま やすし)

貴金属加工職人
原型師

株式会社 雨宮金属
笛吹市御坂町金川原1507
Tel:055-262-3218



craftsman jewelry